



日独首脳共同声明(概要)

令和8年(2026年)10月
外務省

➤「プレミアム・パートナー」としての日独関係を再確認。同時に発出する「先端技術」及び「経済安全保障」に関する共同宣言も柱に、幅広い分野での更なる協力で一致。

1 安全保障・防衛協力

- 欧州・大西洋とインド太平洋の安全保障・繁栄の相互連関を確認。日本の進化した「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」及び独のインド太平洋ガイドラインに沿って協力を強化。
- 外務・防衛閣僚会合(「2+2」)の早期開催。独は防衛装備移転三原則・運用指針の見直しを歓迎。双方は、それぞれの国家安保戦略策定・改定が地域の平和と安全に資するとの認識を共有。安全保障及び防衛協力エコシステムを更に発展させる決意を再確認。協力を強化し、及び円滑にする枠組みを模索。防衛産業協力深化の期待を表明。
- 戦略的コミュニケーション、外国による情報操作・干渉(FIMI)対策の対話・協力を深化。脅威評価や知見の共有、社会の強靱性向上を推進。サイバー協力及び重要インフラの強靱性を強化。

2 経済・貿易その他の二国間協力

- 経済的威圧への重大な懸念を表明し、ルールに基づく自由で開かれ、公正な経済秩序と経済の強靱性を重視。先端技術及び経済安全保障に関する相互補完的な共同宣言を歓迎し、協力・連携を強化。
- 日・欧州連合(EU)の枠組みにおける経済・戦略的連携を強化。日独サプライチェーンの連結性、開放性、及び強靱性を維持し、同志国のための公平な競争条件を確保するために、共同で取り組むことを決定し、「Made with」のアプローチを原則支持。この目的のため、戦略的分野に対する産業支援措置などにおいて、信頼できるパートナーである日本及びEU双方の利益が、原則として相互に考慮されることを確保すべく、日・EUそれぞれの政策に関し緊密に協力する意向を確認。
- ハノーバーメッセ2028のパートナー国としての日本の参加を確認。第2回日独政府間協議を翌年ベルリンで早期に開催することを目指す。

3 地域情勢・世界情勢

- 東・南シナ海への深刻な懸念、力又は威圧による一方的な現状変更の試みへの強い反対を表明。台湾海峡の平和と安定を重視。北朝鮮の完全・検証可能・不可逆的な非核化、拉致問題の即時解決を要求。
- ロシアのウクライナ侵略を非難し、ロシアに対し全面的・即時・無条件の停戦を要求。公正かつ永続的な平和の実現のための努力において、また、ウクライナの復旧・復興に向け、日独で連携。中東の持続的平和と安定、ホルムズ海峡及びバブ・エル・マンデブ海峡の自由で安全な航行並びに「二国家解決」を重視。
- 国連安全保障理事会改革に向け、G4(日独印伯)で緊密に連携。加盟国の過半数が支持する常任・非常任議席の双方拡大、統合モデルの作成及び文言ベース交渉の開始に向けて協力。国際司法システムに対する継続した揺るぎない支持を表明。